

2.1.5

ヘレニズム時代
の思想

ヘレニズム **hellenism**

の語源

ヘラス：ギリシヤ

ヘレネス：ギリシヤ人

ヘレニズム：ギリシヤ風

ヘレニズム

hellenism

とは何か？

ギリシァ風文化

ギリシァ精神

↔ヘブライズム

(ユダヤキリスト教文
化)

アレクサンドロス大王
以後約300年間の時代
と文化

前323アレクサンドロスの死
～

前30

の死



アレクサンドロス大王の死後

マケドニアは後継者争いにより分裂



ジャン＝アンドレ・リクセン作 「 の死」

アレクサンドロス大王 以後約300年間の時代 と文化

前323アレクサンドロスの死

～

前30クレオパトラの死

ヘレニズム国家

プトレマイオス朝 **エジプト**

セレウコス朝 シリア

アンティゴノス朝 マケドニア

ポリス期とヘレニズム期の違い

ポリス期

ポリス 小規模

市民意識が高い

ポリス期とヘレニズム期の違い

ヘレニズム期

コスモポリス世界国家

コスモポリタニズム

世界市民主義

ポリス期の人間観

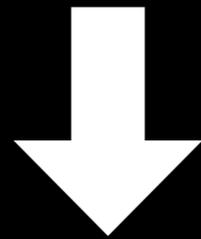
ヘレネス ギリシヤ人同胞

バルバロイ 外国人 野蛮人

→barbarian (野蛮人)

ヘレニズム期の人間観

肌の色, 言語, 文化の違うすべての人々に共通するものは何か



理性 ロゴス

ヘレニズム期の思想の特徴

世界市民主義

個人主義

ストア学派 禁欲主義

Stoicism

創始者

キプロスのゼノン

キプロスのゼノン

キュニク（犬儒）派やアカデメイアに学び、アゴラの彩色柱廊（ストア・ポイキレ）に学園を開く。

72歳の頃けがをしたことから、もはや自分の生には価値がないとして自殺したといわれる。

キュニク派とは

キュニコス・ビオス：犬の生活

を理想とする禁欲主義者たち

キュニコス派, 犬儒派

樽の中のディオゲネスが有名



「ディオゲネスを訪れるアレキサンダー大王」

ニコラ＝アンドレ・モンシオ



ストア (列柱廊)

列柱廊stoa

⇒ ストア学派

the **Stoic** School

Stoicism

= ストア哲学

禁欲主義

理性（ロゴス）の意味

思考・言語の原理：人間の能力

世界・自然の**秩序** kosmos

避けることのできない運命

倫理的価値の包括的原理

→自然法思想につながる

ストア派の人生の目的

自然の秩序に則って生きる

=宇宙と一体化する

⇒最大の幸福

自然に従って生きよ

=理性に従って生きよ

ストア派が否定するもの
ロゴスに反するもの

パトス pathos

非理性的な情念

意欲 欲念

恐怖 快 苦など

パトスのない状態

アパテイア

不動心, 無情念

×希 *apathēia*

羅 *nil admirari*

石炭をば早や積み果てつ。中等室の卓（つくゑ）のほとりはいと静にて、熾熱燈（しねつとう）の光の晴れがましきも徒（いたづら）なり。今宵は夜毎にこゝに集ひ来る骨牌（カルタ）仲間も「ホテル」に宿りて、舟に残れるは余一人のみなれば。

五年前（いつとせまへ）の事なりしが、平生（ひごろ）の望足りて、洋行の官命を蒙（かうむ）り、このセイゴンの港まで来（こ）し頃は、目に見るもの、耳に聞くもの、一つとして新（あらた）ならぬはなく、筆に任せて書き記しつる紀行文日ごとに幾千言をかなしけむ、当時の新聞に載せられて、世の人にもてはやされしかど、今日になりておもへば、釋（をさな）き思想、身の程ほど知らぬ放言、さらぬも尋常（よのつね）の動植金石、さては風俗などをさへ珍しげにしるしゝを、心ある人はいかにか見けむ。

こたびは途に上りしとき、日記
ものせむとて買ひし冊子もまだ
白紙のまゝなるは、独逸にて物
学びせし間に、一種の「**ニル、
アドミラリイ**」の氣象をや養ひ
得たりけむ、あらず、これには
別に故あり。

ヘレニズム時代に成立し
たストア派哲学は
ローマの時代になっても
奴隷から皇帝まで広く
人々に支持された

ローマ帝国時代のストア派

セネカ

： 劇作家, 政治家 ネロ帝の家庭教師

エピクテトス

： 奴隷の子 主人は向学心を認め、後に解放

マルクス・アウレリウス

： 五賢帝の一人 著書 『自省録』 など

ストア派は厳しい克己心
と義務感を身につけ、自
然のロゴスに従って、こ
の世を正しく理性的に生
きることを求めた

エピク로스学派

Epicureanism

(快樂主義)

原子論と 主義で有名な
古代ギリシアの哲学者
アテナイに庭園つきの学園
「エピクロスの花園」と呼
ばれ、彼は〈花園の哲学
者〉と呼ばれた

快樂 ← → 苦痛

人間にとっての
最大の苦痛は？

死の苦痛をやわらげるとは
にはどうしたらよい
か？

われわれが存在する限り

死は現に存在せず、**死**が

現に存在するときには、

もはや我々は存在しない

エピクロス 『メノイケウスへの手紙』 より

死の苦痛なき
人生の目的は？

快樂

快樂こそは幸福なる

生活の始めにして

終わりなのである

それでは快楽とは何か？

快が目的である、とわれわれ
われが言うとき、われわれ
の意味する快は、道楽
者の快でもなければ、性
的な享楽のうち存する
快でもなく、

肉体において苦しみのない
ことと**霊魂**において乱
され**ない**（**平静**である）

こととに**他**ならない。

蓋し、快の生活を生み出すものは、つづげざまの飲酒や宴会騒ぎでもなければ、また、美少年や婦女子と遊び戯れたり、魚肉その他、ぜいたくな食事が差し出す限りの美味美食を楽しむたぐいの享樂でもなく、

かえって**素面の思考**（ネーポーン・ロギスモス）が、つまり、**一切の選択と忌避の原因**を探し出し、**靈魂を捉える極度の動揺**の生じるもととなる**さまざま**な臆見（ドクサ）を**追いか**つと**ころ**の、**素面の思考こそが快**の生活を**生み出す**のである。

エピクロス 『メインケウス宛の手紙』

アタラクシア

ataraxia

魂（心）の平静な状態

ア（否定） タラクシア（煩わしさ）

ラテ・ビオーサス

隠れて生きよ

アウトルケア（自己充足）を求める生活

エピクロスは心の平静
(アタラクシア) を
何よりも幸福と考えた

新プラトニズム

ネオプラトニズム

プロティノスが創始した哲学

プラトン, アリストテレス, ストア学

派, 新ピタゴラス学派の哲学に加

え, オリエント, エジプトの神秘学

からも影響を受ける

プロティノスに至ってギリシア・ロー

マ文明とオリエント・エジプト文明が

完全に一体化したと言われる

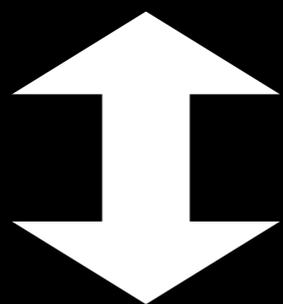
プラトシ

プロティノス

一者

イデア界 →

知性



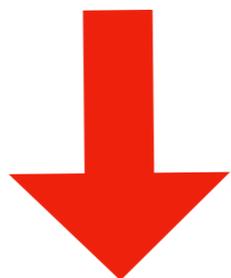
魂

現象界

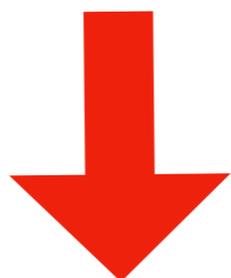
イデア界を

三段階に

一者



知性



魂

【今日のまとめ】
ヘレニズム思想は
ギリシア哲学を
世界に広げた